

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 280

事務事業名	乳幼児健康相談事業
-------	-----------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	こども未来部		
課名	こども家庭課		
課長名	山下 浩典	内線	170
担当者名	馬場 由加	内線	170

基本目標		人を育むまち
政策	010102	子育てしやすいまちづくり
施策		親と子の健康増進
関連施策		

会計	1	一般会計
款	4	衛生費
項	1	保健衛生費
目	1	保健衛生総務費
事業コード	060200	乳幼児健康相談事業

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画	第2次健康おおむら21計画	
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者)	誰(何)に対して事業を行うか 乳幼児の保護者		
意図	対象をどのような状態にしたいか 乳幼児の発育に関し専門職からの適切な指導を行うことにより、育児不安の軽減及び育児支援を図る。また、育児に不安を抱える親を把握することにより、家庭における育児環境の改善の支援を図るとともに、虐待の予防と早期発見を図る。		
事業概要	意図を達成するために実施することは何か ①月に1回、こどもセンター(6回)と郡地区公民館(6回)において、「乳幼児すくすく健康相談」を開催し、専門職(保健師・管理栄養士・歯科衛生士)による相談業務を実施する。 ②月に2回、こどもセンターにおいて、「離乳食教室」を開催し、管理栄養士による相談業務を実施する。		
事業期間	昭和 50 年度 ~ 平成 年度	実施方法	直営
根拠法令、要綱等	母子保健法 第9・10条、第2次健康おおむら21計画		
国・県補助事業に係る本市単独施策	無		

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 乳幼児すくすく健康相談実施回数	計画値	12	12	12	12	
		実績値	12	11	12		
	達成度	%	100.0%	91.7%	100.0%		
	② 離乳食教室実施回数	計画値	12	12	24	24	
実績値		12	12	23			
達成度	%	100.0%	100.0%	95.8%			
成果指標	① 乳幼児すくすく健康相談の参加延べ人数	計画値	450	450	394	300	
		実績値	494	361	274		
	達成度	%	109.8%	80.2%	69.5%		
	② 離乳食教室の参加延べ人数	計画値	180	200	350	320	
		実績値	200	217	319		
	達成度	%	111.1%	108.5%	91.1%		

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	161	86	117	161	153	153	153	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	161	86	117	161	153	153	153	
② 人件費(千円)	2,697	3,129	2,863	3,272	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.33	0.40	0.40	0.45				
時間外勤務(時間)	37	53	21	0				
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	2,858	3,215	2,980	3,433				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	H27年度から10か月前後の乳幼児とその保護者を対象に「離乳食教室」の後期を開催。H27年度は11回開催し延べ85名の参加あり。今後も動向を確認しながら事業の再検討を行う。
事業が抱える問題・課題等	乳幼児すくすく健康相談の参加者数が減少している。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	核家族化の進行に伴い、身近に育児相談相手を見つけることが困難な家庭が増加しており、育児経験不足等、育児に不安を抱える親が増加している。また、母子保健事業や子育て支援サービスへの紹介ができる本事業は、健康づくりや育児支援、虐待の予防と早期発見の機会として重要である。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市の関与として、育児支援・育児相談を行うことで、必要な機関へのコーディネートを行うことができる。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	スタッフが個別相談希望者へ適切な対応をすることができた。						
効率性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	専門的な知識を持った職員が配置されていることで、いつでも育児相談が出来る環境が確保されており、育児中の保護者が安心して、安全な育児をする手助けとなっている。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	専門職からの育児支援・育児相談を行う上でこれ以上のコスト削減はできない。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	「乳幼児すくすく健康相談」は参加者が以前より減少しているが、「離乳食教室」の後期を開始したことで相談の場が増えたこと等もあり、参加者全員に細やかな対応ができるようになった。この事業は赤ちゃん訪問等のフォローの場として必要な事業であり、受け皿となっているため、今後はさらに育児支援の場となるよう内容や周知方法等について検討を行う。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	適切な指導を行うことにより、育児不安の軽減につながる。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。